

(商標登録番号・第4234817号)



— 第38号 —
河野太郎事務所

電子メール
taro@konotaro.org
ホームページ
http://www.taro.org/

自民党神奈川県
第15選挙区支部
平塚事務所
〒254-0811 平塚市八重咲町7-26
鶴巻ビル

TEL 0463-20-2001
FAX 0463-21-7711
茅ヶ崎事務所
〒253-0045 茅ヶ崎市十間坂1-2-3
ツユキビル2F

TEL 0467-86-2001
FAX 0467-86-2002
議員会館
〒100-8982 千代田区永田町2-1-2
衆議院第2議員会館206号室
TEL 03-3508-7006

河野太郎の国会報告

皮肉なことに、その圧倒的な勝利ゆえに、日本の自由主義、民主主義、資本主義を守るために存在して

きた自由民主党の存在意義がだんだんと薄れていってしまつたのです。冷戦終結後、自民党とは何かという問いに対して、「自民党とは政権与党である」としか言いようがない時代になつてしまいました。しかし、野党になつてしまつた今日、

私は思います。自由民主党とは、経済を非効率的な官の規制から切り離し、市場原理に基づいた公平で健全な競争の中から生み出される強い国際競争力を背景に、雇用を生み出し、国民所得を高め、全ての国民に世界で最高レベルの生活水準を保証する政党であるべきだと、私は思います。そして、健全な競争の前提としていかなる弱

自民党再生のために

自民党を再定義する

「正直に申しまして、今年ここにお集まりの皆さまは、国民が現在自民党に対してかなり根強い不信の念を持つようになつておられることに、あまり気付いておられないかもしれません。皆さま方の周囲に集まるのは、常に自民党のファンであり、人間は面と向かえば甘い言葉を口にする、という習性があるからです。もちろん人間は基本的に誰でも間違いを犯すものではありませんが、昨今の自民党への国民の失望は、今までといささか違つた要素を持つているように見受けられます。」

かなり厳しい批判ですが、これは今年誰かが口にした言葉ではありません。実に今から二十年前、一九八九

年の自民党第五十回定期党大会における曾野綾子さんの来賓挨拶の一節です。そのころから自民党の抱える問題点は指摘されていたのです。ただ、勇気をふるつて党を変えようとするリーダーが自民党に出てこなかつたのです。

を唱える社会党と対決してきました。そしてそのなかで日本の高度成長の礎を造つたのは自由民主党だといつても過言ではないと思えます。

やがてベルリンの壁が壊され、ソ連が消滅して冷戦が終わり、中国ですら市場

かつての五十五年体制の下では、自由民主党は自由主義、民主主義、資本主義を主張して、ソ連をはじめとする共産主義の脅威に対

抗し、国会では非武装中立

経済を取り入れるようになると、これまで自由民主党が主張し続けてきた自由主義、民主主義、資本主義があたりまえの世の中になりました。

自由民主党は、圧倒的な勝利を収めました。しかし、

自由民主党は、圧倒的な勝利を収めました。しかし、

自由主義、民主主義、資本主義が普遍的

総裁選日記

8月30日

総選挙。自民党惨敗。

な汗だくで上着絞ったらプールのできそうなくらいだ。

9月7日

総裁選挙第一回の選対会議。山本一太、世耕弘成、義家弘介参議院議員、大村秀章、平将明、柴山昌彦代議士。出馬することが目的ではなく、勝つことをめざしてやる。推薦人集めスタート。

9月14日

推薦人集めが頭打ちに。どうも様子が変だ。いろんな議員が立候補のために推薦人集めをしているらしい。誰かが後ろで候補者の乱立を工作している。何人も手が上がると、二十人をまとめるのは大変だ。

9月8日

両院議員総会。総裁選挙の立候補に必要な推薦人を十人に引き下げるよう動議を出す。これまでいつも候補者が派閥の領袖に頭を下げて推薦人を借りていた。だから推薦人の数は減らした方がいいに決まっている。しかし、否決。

この両院議員総会があまり長引かないように、実は執行部の指示で部屋のエアコンが切られていた。みんな

9月15日

二十人集まると一人切り



するのは自民党史上初めてだ。少し自民党が変わった。

9月18日

西村康稔、谷垣禎一、河野太郎の三人が立候補。立候補の所信表明。(ホームページは <http://www.taroo.jp/> から、所信表明を約十五分の動画でご覧いただけます。)

「自民党がどういう日本を目指すのか」ということをはっきりさせるべきだ。私は、経済成長を志向し小さな政府を目指す政党になるべきだと思ふ。もちろん人口構成が逆ピラミッド型になってしまったため、社会保障は政府が公費を投入して支えなければならぬ。だからアメリカでいう小さな政府とは違うが、官から民、中央から地方という権限の委譲をして小さくてあたたかい中央政府を作るべきだ。そ

崩されるの繰り返し。毎晩、選対会議で一枚、二枚と数えるが二十枚にはならない。番町皿屋敷のお菊さんだ。

9月16日

特別国会召集。首班指名で鳩山内閣誕生、自民党下野。

9月17日

記者会見を開き、出馬宣言。派閥の後押しなしで若手だけで総裁選挙に立候補

して官が作った官のための規制をなくして経済を成長させ、国民一人一人を豊かにして、経済成長の果実を社会保障にまわしていく。それでこそ、大きな政府と再分配を志向する民主党と対抗軸ができる。増税して大きな政府に再分配をさせるか、小さな政府で活力ある経済を作り、雇用を増やし経済成長をさせるか。選対会議で、総裁選挙中にも裏で妨害行為をやられたらたまらないので、一人だけ名指しで批判することに決める。一人でも具体名を挙げれば、マスコミも報道できる。そうなれば妨害行為はできなくなるだろう(結局、二人名指ししてしまっただが)。

9月19日

日本記者クラブで討論会。谷垣さんは『中負担、中福祉』を主張する。大きな政府と小さな政府の議論の中で結果としてそうなるかもしれないが、最初からそう言ってしまつたら、目指す

理念もはつきりしない。今の自民党には『みんなやろうぜ』ではなくて『世代交代』が必要だ。

9月20日

J-1昇格を目指すベルマーレを応援するために、緑のフレームの眼鏡をずっとかけてきた。が、陣営から「眼鏡換えて」の大合唱。ということで、総裁選の間、眼鏡を換える。

9月21日

札幌市内の大通西四丁目街頭演説スタート。札幌から新潟へ。古町十字路で街頭演説。

9月22日

午後一時、盛岡、そして午後四時、郡山。専属ブロガーとして山本一太さんが、常同行し、こまめにブログを更新。

9月23日

世耕参議院議員のアルファード(俗称「動く戦略司令部」!)に乗って、柴山昌彦代

議士の地元、所沢の農家へ。狭山茶を味わって、地元の方たちと意見交換会。

車中は、世耕さんの iPod の中から、シーナ・イーストンのヒット曲をかけ続ける。

横浜駅西口高島屋前で合同街頭演説会。地元は本当にありがたく、この総裁選挙最高の人出を記録。司会是小泉進次郎代議員。

9月25日

浜松で街頭演説して新幹線で名古屋へ。十六時十分名古屋着。

ホームに降りると大村事務所スタッフが待っていて「走って下さい!」。ホームとコンコースを走り抜け、駅前で河野陣営がやっている街頭演説会場に走り込む。

名古屋駅前で十五時五十分から仲間がみんな交代しながら演説してくれていた。演説途中の山本一太さんからマイクを受け取って、約十分間の街頭演説。大勢の皆さんが階段の上までぎっしり。途中で、走れとの合

図が出て、演説を終了してダッシュ。十六時三十一分発名鉄の中部国際空港行きに乗り込む。セーフ。正味二十一分の乗り換え時間を使った。河野陣営の街頭演説。中部国際空港から熊本へ。

9月26日

マスコミも街頭演説では河野圧勝という評価だし、手応えはもの凄く良い。地元群馬県の党員に電話した山本一太さんが群馬は四対二で勝るときっぱり。菅原代議員も東京も勝てる

断言。党員票で勝って、「世論や党員の声を国会議員がひっくり返すのか」と議員に働きかけるためのピラを作成する。

9月27日

フジテレビ「新報道2001」に出演。番組冒頭で世論調査の結果が発表される。新しい自民党の総裁にふさわしいのはという調査に、河野太郎四十%、谷垣禎一三十%!

9月28日

党本部の選対事務所で党員票の結果を待つ。すると一太さんから「太郎ちゃん、ごめん。群馬三対三になっちゃった」。あれっ。九票ある神奈川は七対二。これでリード。が、東京も同点に。九州や東北でだんだん谷垣さんが少しづつリード。とうとう、谷垣さんが過半数を超えた。せつかくのピラも無駄になった。百九対百八十。本当は逆の結果を予想していたが、党本部のホールで党員投票始まる。もはや勝負はついた。しかし、河野だと言ってくれた議員の三十五票は負けがわかつても減らなかつた。

たので、党員票で負けてしまつては、正直、勝負になりません。せつかくの世論の支持を党員票の支持にきちんとつなげていくことができませんでした。私の力不足でした。今回の仲間の輪を大切に、再起を期して参ります。ありがとうございます。

総裁選挙は、敗北に終わりました。世論の支持、党員の支持で議員票を切り崩す作戦でし



者にも安心をもたらす社会保障を実現し、より多くの権限を財源とともにより国民に近いところ、つまり地方政府に移すことにより民主主義を身近なものにする政党でなければならぬと思います。

私の目指す自由民主党とは、むやみやたらと規制を作って経済に介入することをせず、地方が決められることは国が関与せずに地方にまかせるという意味での「権力の小さい」政府を創ろうとする政党です。そしてまた、最初から何でも政府がやるのではなく、一人一人が自ら努力し、家庭や地域ではお互いを助け合い、それでも足らざるところを政府が補うことを理念として財政を運営する、つまり、必要以上に政府に税金を集めないという意味で「財政の小さい」政府を目指す政党です。

維持していこうとすると、どうしても自助、共助だけではたりません。社会保障制度を維持するために必要な公費を投入しなければならぬという点で、自民党の目指すべき「小さい政府」は、小さい政府の中でも社会保障費の分だけ大きい政府にならざるを得ません。しかし理念として「小さい」政府を目指す政党として、私は自民党を再定義していきたいと思っています。

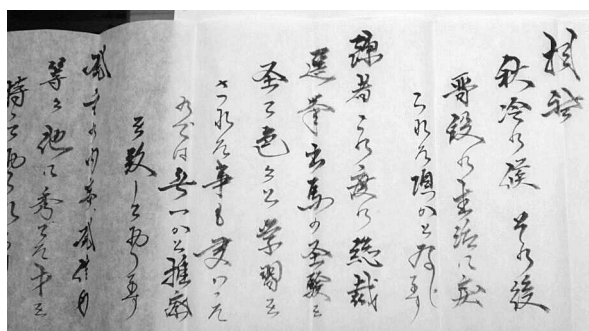
9月16日にスタートした鳩山総理率いる民主党は、大きな政府をつくり再分配を志向する政党です。日本というパイの切り方が不揃いだから政府が包丁を持ってパイを切り直しましょうという政党です。パイを切り直すためには大きな政府を作り、税金を集めて再分配をしなければなりません。民主党のうたう子ども手当や高速道路の無料化がまさにこれにあたります。再分配の財源をひねり出すためには増税をしなければなりません。

それに対して、河野太郎の目指す自由民主党は、経済を成長させることにより、雇用を増やし、経済成長の果実を社会保障に回しながら一人一人の豊かさを増やしていくことを目指します。つまりパイそのものを大きくしていこうという考え方です。

しょう。

「野党自民党」は、明確な理念を打ち出し、それに基づいた政策をつくり、その実現のために活動する政党にならなければなりません。そして、その理念と政策を共有する党员、支持者を獲得していかなければなりません。

日本に経済成長を志向する政党と再分配を志向する政党の二つの政党が確立され、健全な二大政党政治を築いていくことこそが、この国を二十一世紀に再び発



総裁選後、麻生前総理からの手紙

展させていくことにつながると思います。自民党を再生させるのは、自民党のためではなく、日本の未来のために必要なのです。

「ごまめの歯ざり」も第三十八号になりました。国会が開会すると、朝八時の自民党本部での政策会議から一日が始まるため、なかなか駅頭等の配布ができません。タイムリーな情報をお届けするために、この「ごまめの歯ざり」の他に、インターネットでは、メールマガジン版「ごまめの歯ざり」をほぼ毎日発行して、国会や政府の中での河野太郎の活動をもっと細かく報告していきます。ぜひ、そちらもご愛読いただきますようお願い申し上げます。メールマガジンのバックナンバーもホームページでご覧いただけます。
(<http://www.taro.or.jp>)